

2019年度事業計画

2019年4月

国立研究開発法人日本原子力研究開発機構

核燃料・バックエンド研究開発部門

人形峠環境技術センター

人形峠環境技術センター（以下「センター」という。）は、ウラン取扱施設や鉱山関連施設の廃止措置を継続しつつ関連する研究開発等を進めます。業務の実施に当たっては、安全確保を最優先とした上で、効率的な推進に努めます。また、地域社会との共生及び成果普及への取り組みなどを継続します。

センターが推進する「ウランと環境研究プラットフォーム」構想については、2017年度から2年（全8回）に渡り開催した「ウランと環境研究懇話会」にて、センターの取り組む事業について、安全・安心や地域社会への貢献等の視点で意見・提言をいただきました。

2019年度は、引き続き安全確保を最優先として、これらの意見・提言を「鉱山施設の閉山措置、減損ウランの安定保管管理等の対策及び放射性廃棄物の処理・処分技術開発」等の研究計画に適切に反映し、必要な取り組みを進めます。

2019年度のセンターの取り組み事項は、以下のとおりです。

1. 安全確保・環境保全に関すること

- 1) センター各施設、設備及び放射性廃棄物の安全かつ適正な管理を継続します。
- 2) 品質保証活動、潜在的リスクへの対策、基本動作の徹底及び現場でのコミュニケーションの活発化等により、安全確保、法令遵守を最優先とした業務実施活動を継続します。
- 3) 計画的なエネルギー管理により省資源を推進し、地球温暖化防止等、環境に配慮した業務実施活動を継続します。

2. 事業（開発・研究等）に関すること

- 1) ウラン濃縮原型プラントは、2018年度に原子力規制委員会に申請した廃止措置計画の審査の対応を進めます。また、解体に向けた準備を継続すると

- ともに、減損ウランの安定保管管理等の検討を進めます。
- 2) 製錬転換施設は、2018年度に原子力規制委員会に申請した使用変更許可の審査の対応を進め、許可を受けたのち、使用を終えた設備の解体を進めるとともに、不要物品等の処置を継続します。
 - 3) 濃縮工学施設は、使用を終えた設備の解体撤去・除染済部品のクリアランス対応、澱物類の処理方法の確立を目的とした基礎試験を継続するとともに、不要物品等の処置を継続します。
 - 4) 放射性廃棄物の処理・処分技術開発として、除染技術開発等のウラン廃棄物工学研究やフィールド調査等の環境研究を進めます。
 - 5) 東京電力ホールディングス(株)福島第一原子力発電所の事故の収束に向けた対応として、環境修復の技術開発やコミュニケーション活動等への支援を継続します。

以上

2019年度事業計画スケジュール

項 目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 安全確保・環境保全に関すること												
(1) 各施設・設備及び放射性廃棄物の安全かつ適正な管理	施設・設備の維持管理 放射性廃棄物の管理											
(2) 安全確保、法令遵守を最優先とした事業実施活動の継続	品質保証活動、潜在的リスクへの対策、基本動作の徹底、現場でのコミュニケーション等の安全活動の実施											
(3) 環境に配慮した事業実施活動の継続	省エネルギー、省資源活動の実施											
2. 事業（開発・研究等）に関すること												
(1) 廃止措置計画の審査対応 ・ 解体に向けた準備 ・ 減損ウランの安定保管管理等の検討 (ウラン濃縮原型プラント)	廃止措置計画の審査対応 解体に向けた準備、減損ウランの安定保管管理等の検討											
(2) 設備の解体撤去 ・ 不要物品等の処置 (製錬転換施設)	設備の解体撤去及び不要物品等の処置											
(3) 設備の解体撤去 ・ 除染済部品のクリアランス対応 ・ 澱物類の処理試験 ・ 不要物品等の処置 (濃縮工学施設)	設備の解体撤去、クリアランス対応、 澱物類の処理試験、不要物品等の処置											
(4) 除染技術開発等のウラン廃棄物工学研究 ・ フィールド調査等の環境研究	除染技術開発等のウラン廃棄物工学研究 フィールド調査等の環境研究											
(5) 環境修復の技術開発、コミュニケーション活動等への支援	環境修復の技術開発、コミュニケーション活動											